

「教職実践演習」にて教員版ケーススタディを実施



背景

淑徳大学では、大学4年生を対象に「教職実践演習」を実施している。内容は、学習指導、生徒指導、学級経営、など多岐にわたる。今回、学校現場でのシミュレーションを通して仕事の取り組み姿勢や優先順位付けを学習する教材（教員版ケーススタディ）をご紹介します、授業で実施させていただけることになった。

導入

小学校で想定される10の案件を提示し、①優先順位を付ける、②対応方法を考える、という個人演習を行った。その後、グループで意見を共有したのち、講師から回答例を紹介した。具体的な事例を挙げながら、「タイムマネジメント」「学校現場のICT活用」について紹介した。

効果

学生の優先順位の基準は「期限が近いものから」「自分がすぐにできることから」「児童に関わる者から」と様々だった。タイムマネジメントでは緊急度（高）重要度（低）の領域を2番目に着手するという意見がほとんどで、重要度の高い仕事の取り扱いについて新たな気づきを得ていた。学生から質問や意見もあり、意欲的だった。

< 学生アンケートから >

- ・具体的な事例をもとにした内容で新たな気づきを得られました。
- ・自分では優先順位が低いと感じても、反対意見があることに報連相の重要性を改めて知りました。
- ・私は、仕事が多まると焦ってしまうので、簡単に出来ることから進めようとしていました。ですが、講師の方の話を聞いて、重要度の高いものから進めていくのがタイムマネジメント的には良いと知れて、今後の仕事にも役立てていきたいと感じました。
- ・タイムマネジメントについてとても勉強になりました。私は教員にはならないのですが、一社会人としてとても重要なことだと思います。「重要度」と「緊急度」をよく考えて、優先順位をつけて物事を判断をしていきたいと思いました。

< 教職課程ご担当の先生から >

- ・学校現場での具体的な事例に基づく講義で、学生も集中して臨んでいました。事例への対応方法もちろん大切ですが、タイムマネジメントの視点を取り入れた現実的な学びを得ることができたと思います。

